マグダラのマリアの霊性1
ピエール•ド•ベリュールとサント=ボームのマグダラのマリア

小泉友美KOIZUMI Tomomi

目次

ピエール• ド• ベリュールのマグダラのマリア 1

目次

ピエール• ド• ベリュールのマグダラのマリア

フランソワ• ド• サール François de Sales (1567-1622 年) と同じく、ユマニズム• デボ運動の中の純粋な愛を体現したベリュールのマグダラのマリアの愛の表現について

ピエール• ド• ベリュール Pierre de Bérulle (1575-1629 年) はフランスの 17 世紀のカトリック聖職者、政治家、枢機卿であり、神学者。
司祭の霊的• 知的な育成を目的としたオラトリオ修道会 (Oratoire de France) を 1611 年設立。1602 年に愛の博士、聖フランソワ• ド• サール François de Sales (1567-1622 年) と出会い、親交を深めました。フランソワ曰く、ベリュールは神から多くのものを授けられた人物であり、接するだけで大きな益があると高く評価しました。ベリュールの生きた時代は、プロテスタントとカトリックの不和の問題があったにも関わらず、ユマニズム• デボ (L'humanisme dévot 敬虔なヒューマニズム運動 1580 年から 1660 年) と言うフランス• カトリック寛容的スピリチュアリズムの時代であり、キリスト教信仰と人間への信頼を調和させて、人間の内面的な精神生活を高める事で、神との信仰につながる愛と優しさをテーマにして、すべての人々の魂の休済を求めました。この愛を求めるスピリチュアリティーは、純粋な愛 Le Pur Amour という用語で表現されて、このユマニズム• デボにおいての神秘主義体験は、神との結合、愛そのものとされます。この神愛を求める為に、敬虔さ、美徳、観想という実践がされました。
17 世紀におけるこの純粋な愛の概念は、信仰において、一切の個人的な見返りを求めず、ただ神そのものを愛する理想の信仰で、究極的な自己の放棄を目標としていました。この純粋な愛は後に、フランソワ• フェヌロン (1651-1715 年) の静寂主義 (キエティスム) の問題となりました。

ベリュールは晩年、マグダラのマリアの高揚 L'élévation sur sainte Madeleine (1627 年刊行) を著作し、この L'élévation とは、高揚、高まりという意味の他に、気高さという意味があります。ベリュールにとってのマグダラのマリアは、イエスとの最初の出会いから永遠に罪が消し去られて、キリストの愛に身を委ねた魂の模範とされています。この著作には、キリストの愛、マグダラのマリアの愛が強調され、マグダラのマリアは、キリストへの純粋な愛を体現した人物であり、キリストの受難、死、そして復活に最も深く寄り添い、その恵みを直接受けた、キリストの愛の最高の証人、愛の使徒として描かれています。
このベリュールの著作は、主にルカの福音書に影響されています。ベリュールのマグダラのマリアは、キリストの最も重要な女性信徒の一人で、福音書に登場する様々なマリアと同一視されています。

七つの悪霊をキリストに追いだしてもらい、イエスの一行を支えて宣教の旅に同行した女性、ファリサイ派の人の食卓において、イエスの足を香油で拭った女性、ラザロの姉妹として、キリストの足元に座って熱心に話を聞いた女性、復活したイエスに出会い、使徒達に福音を告げた女性です。
また、17 世紀に流行していたマグダラのマリアの伝説にも影響されており、ヤコブス・デ・ウォラギネ著作の黄金伝説 Legenda aurea (1267 年頃に完成) という、キリスト教聖人伝が土台となっており、この黄金伝説のマグダラのマリアは、王族の子孫とされ、兄ラザロと姉マルタと共にマグダラの土地を所有しており、お金持ちで美貌に優れた女性として描かれています。キリストと出会い、キリストの足を涙と高価な香油で拭い、キリストから 7 つの悪霊を追いだしてもらいました。そして、キリストと常に福音の旅に同行して、キリストの受難と昇天から 14 年後、他の使徒達と共に舟に乗って南フランスのマルセイユに着きました。マルセイユの市民にキリストの女弟子として福音を説き、その後、マルセイユ近くのサント=ボーム山塊内の標高 1147 メートルの洞窟で、30 年間隠遁生活を送りました。
祈りと悔俊の日々において、耳に天上より壮麗な天使の歌声で満たされこのサント=ボームの聖地は、中世より、キリスト教徒、悔俊者、教皇、国王、様々な人々が巡礼に訪れ、1793 年の革命の炎によって焼失されるまで、見事な王室修道院の建物がありました。1851 年に修繕されて、現在山の下にドミニコ会修道院があり、世界中の巡礼者達を受け入れています。

聖マグダラのマリアの高揚の著作は、20 章からなる短い詩で構成されており、最後は美しいマグダラのマリアへの賛美の詩で終わっています。
ここでは、最後のマグダラのマリアを賛美する詩に重点を置いて、個人的にまとめてみました。引用及び参照に用いた外国語の参考文献は、私自身の翻訳です。

もっとも希少なキリストの愛の結晶は、マグダラのマリアの存在であり、キリストによって、マグダラのマリアは死の状態から生を与えられて、また、虚栄の生活より真実を与えられました。キリストはマリアとつながり、マリアはキリスト、そのものであります。マリアはキリストしか見つめず、キリストしか探しません。キリストの足元に膝まずき、涙と髪で拭い、香油で覆い、マリアはキリストを讃え、キリストを愛し、キリストを祝別しました。マリアの心は、キリストの愛によって壊され、抱えている香油瓶より流れてゆく様に、この愛は天・地に流れてゆきます。
愛がある為に苦しみがあり、愛と苦痛が増えてゆき、この苦しみにおいてキリストを喜ばせました。
十字架はキリストの愛の勝利であり、キリストの愛の勝利であります。一緒に生きて、死に、愛によって、生きて、死にゆく。十字架の足元において、マリアはキリストの愛にすがり、大きな、強い愛を、キリストより受けました。キリストとマリアのお互いの眼差しは、2 つの心が鏡の様に、キリストの言葉 Vade in Pace (平和と共にあります様に) を通してあります。
ベリュールのマグダラのマリアを賛美する祈りの歌は、ベリュール自身がマグダラのマ

リアの愛の霊性にあずかりたいと思い、また、キリストへの愛を讃えたものです。マグダラのマリアの罪は赦された、あなたはたくさん愛したからと、福音の言葉が強調され、マグダラのマリアを通しての神への愛、赦し、慰めによるもので、とても美しく、感動を受ける詩です。

(以下、ベリュールのマグダラのマリアへの祈り)

ベリュールのマグダラのマリアへの祈り

貴女を通して、私達がキリストの元に近づき、その愛に頼る事ができますように。
願わくば、私達が貴女にならって、涙によっておのれの過ちを消しさって、穢れを洗い流す事ができますように。私はあなたと同じ様に、キリストより罪の赦しを得て、貴女が聞いた事を私も聞く事ができますように。

貴女の罪は赦された

なんと、キリストはその愛で私を哀しませるのか。
キリストが貴女を深く哀しませたように、いつの日か、私にも優しい言葉をかけてくれますように。

貴女はたくさん愛した

私が孤独な隠遁生活を愛して、人付き合いの煩わしさや娯楽を避けて、貴女と同じように、最善の選択をする者となれますように。
私がすべてのものから離れ、何よりも自分自身から離れて、完全に神のものとなる為に。
貴女のように隠遁生活を送り、聖なる元へと。
私が、イエスの声とその導きに素直に耳を傾けられますように。
人生の道程において、私を惑わす悪霊や幻惑の霊が近づいて来ませんように。かって、悪霊達が貴女の元から去ったように。どうか私に、清らかな心と精神を与えたまえ。貴女がキリストの足元に膝まずき、授かった比類なき清らかさを与えたまえ。
それは人でも、天使のようでも無く、まさに神なるものであり、人となられたキリストの神聖なる清らかさなのです。そして、清らかさと聖性、その神々しさの内にあります。
私達がキリストの愛に対して忠実で変わり無く、結ばれていますように。イエスの魂をその尊い肉体から引き離す事は出来たとしても、キリストとの絆からは引き離す事は出来無かったからです。
マグダラのマリアの魂も、キリストの体、魂、そして霊から引き離す事は出来ませんでした。十字架で苦しんでいる時も、あるいは墓に葬られている時も、マリアは常にキリストに固く結ばれています。
キリストより愛された女 (ひと) 、貴女の祈りとキリストの愛の内にある強さによって、その愛によって私は傷つけられて、私の心はそのキリストの心に休まり、私の精神はキ

リストの内に生きるのみ、どうか、私達はすべてキリストと共にあり、自由で、また共にとらえられて、そのキリストの恩恵において自由であり、その愛の栄光の内にとらえられるままに。

2026 年 10 月 14 日 フランス• アンジェ　平和祈

マグダラのマリアの霊性1 ピエール･ド･ベリュールとサント=ボームのマグダラのマリア

著　者　　小泉友美 Koizumi Tomomi

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社